

竹富南航路整備事業にかかるサンゴの移設について

石垣港湾事務所 工務課 ◎大村 誠 (おおむら まこと)
佐藤 克行 (さとう かつゆき)

1. 目的

石垣島の西に点在する”西表島””竹富島””小浜島””黒島””波照間島”等の竹富町の生活は、移動や輸送を専ら海上交通に依存しており、生活に欠かせない存在となっています。

竹富南航路整備事業は、昭和49年より事業に着手し、昭和56年に全体航路の一部分である現在の竹富南航路（約2.5km）を供用しているところですが、その先の航路が未整備であり船舶の座礁等住民の「安全・安心」の確保に支障をきたしていましたが、平成23年7月の開発保全航路政令改正を受け、現在未整備部分について航路整備を進めています。

重要なサンゴ礁海域である石西礁湖での航路整備であることから、環境対策には十分配慮した施工を実施しており、その一つとして、航路整備によって影響を生じさせるサンゴについては、整備前に移設（移植）を行いその成長をモニタリング（維持管理）しています。

石垣港湾事務所では、移設したサンゴのモニタリングをとおして、竹富南航路整備事業の全体概要や整備で行っている環境対策について一般の参加者に理解していただくことを目的として、毎年石垣島内で開催されるサンゴウィーク（3月5日（サンゴ）の周辺1週間）に併せ、平成25年3月8日～9日に「移設サンゴ現地見学会」を開催いたしました。

2. 内容

移設したサンゴの現地見学会

- ・実際にサンゴを移設した現場まで船舶移動し、シュノーケルにて潜水観察
- ・参加者は新聞やチラシ配布から募集
- ・竹富南航路整備事業の概要説明
- ・見学会に関するアンケート

3. 結論

移設サンゴの見学会をとおして竹富南航路整備事業を性別や年齢を問わず広く一般の方々に知っていただくことができ、また、整備にかかる環境対策について理解していただくことが出来ました。

普段環境のことを意識していなかった参加者からは、今回の見学会をとおして「自分の住む島や周辺海域の環境に対して意識するきっかけとなった」との意見も頂戴しました。

- ・3日間のべ参加者数26人（男：11人 女：15人）
- ・参加年齢層20代～60代
- ・見学会全体としての評価：全回答で「良かった」

4. 今後の問題点

広報の規模について、見学会をとおして全体的に高評価は頂戴しましたが、参加者からはもっと広く、大人数へのアピールが必要との意見を頂戴しました。

また、イベントの回数についても年に一度ではなく複数回開催できないのかという意見も頂戴しました。